

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成 26年 4月 28日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 霊長類研究所

職 名 教授

氏 名 松 沢 哲 郎

助成の種類	平成 25 年度 ・ 国際交流助成			
事業名	京都大学ブータン友好プログラム:王立大学との連携の発足			
実施期間	平成25年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日			
実施場所	ブータン王国内, 京都大学			
参加者	総数 22 名	内訳 京都大学側 11 名, ブータン王国側 11 名		
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(ヒマラヤ学誌15号)			
会計報告	事業に要した経費総額	13,925,939 円		
	うち当財団からの助成額	3,000,000 円		
	その他の資金の出所	<small>(機関、資金の名称)</small> ・京都大学全学経費 ・特別経費(プロジェクト分) 人間の進化の霊長類的基盤に関する国際共同先端研究の戦略的推進 -人間の本性と心の健康を探索先端研究-		
	経費の内訳と助成金の使途について			
		費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
		渡 航 費	3,716,091	2,220,750
		招 聘 費	2,919,338	0
		人 件 費	3,494,842	0
		事 務 所 経 費	204,964	0
		出 版 経 費	1,599,413	199,868
	展 覧 会 開 催 費 用	0	0	
	事 務 連 絡 費	0	0	
	物 品 費	1,991,291	579,382	
	国 内 交 通 費	0	0	
	合 計	13,925,939	3,000,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)			

成果の概要／松沢哲郎 霊長類研究所・教授

京都大学教育研究振興財団

平成 25 年度・国際交流助成

事業名：京都大学ブータン友好プログラム：王立大学との連携の発足

京都大学ブータン友好プログラム（Kyoto University Bhutan Friendship Program、略称 KU-Bhutan）の平成 25 年度の成果の概要を述べる。本事業は、ブータン国を舞台に、京都大学固有の野外研究の伝統を踏まえた全学的な国際交流事業をおこなうことを目的としている。

ブータンは、人口 70 万人のヒマラヤの小国である。最初の縁は、1957 年晩秋の桑原武夫教授らによる第 3 代王妃の歓待にあった。並存する部局独自の取り組みを束ね、日本で最もブータンと縁の深い大学として、ブータン王立大学ならびに保健省等と協力して、ブータンの国是である国民総幸福量（GNH）をはじめ、健康、文化、安全、生態系、相互貢献の 5 つの側面から総合的な交流をおこなう。そのために必須な現地調査、交流データベース整備、映像・文書アーカイブ作製、HP からの発信、次世代を担う若手研究者の交流プログラム等を推進するものである。平成 22 年 10 月の第一次訪問団が第 4 代国王に謁見して、正式に事業が発足した。

京都大学ブータン友好プログラムの役割は大別して 3 つある。

第 1 は、相互連携である。各部局・各研究者がばらばらにおこなってきたブータン研究の相互連携を図るために連絡会を構成し、HP やフェイスブックやデータベースやアーカイブスの作製をする。実際に、以下のHP を今年度も運用した。ぜひ参照されたい。京大ブータン友好プログラム事業のHP の英語版を充実して国際的な対応を進めた。

<http://www.kyoto-bhutan.org/>

第 2 は、派遣招聘である。大学院生と学部生を中核に次世代のブータン研究者を涵養し京都大学らしいフィールド教育をおこなうための派遣事業をする。実践編として「地域の伝統を活かした高齢者検診システム」を開発中のフィールド医学や、人間とそれ以外の動物の共生を探る霊長類学・野生保全管理学や、東部ブータンへ展開している教育学や、防災科学の現地調査隊に同行する学生や教職員の派遣をおこなう。逆に、ブータンから招聘・来学する者の窓口となる。本年度は、年 2 回の現地派遣事業をおこなった。本学の多様な構成員に広く門戸を開くために、常勤の教職員以外の構成員である学生・大学院生・研究員等も派遣した。うち後述する第 1 2 次隊の派遣は、学生を中心としたもので、本財団の支援によるものである。

第 3 は、京都大学として眼に見える社会貢献・アウトリーチ活動をするために、メディアと連携した広報をおこなう。なお、それらの活動の延長として、外部資金の獲得に向けたプロジェクトを形成する触媒の役割を果たす。そうした日々の蓄積の結果を眼に見える

かたちで結実させるものとして、平成 25 年度においては、本事業による成果報告を学術誌「ヒマラヤ学誌」面に掲載し、その編集出版作業をした。成果を添付する。

具体的な派遣の成果を報告する。この第 12 次隊の学生等の渡航経費は、財団からの助成でまかなった。合計 8 名の隊である。以下の概要である。

日程

2014 年 2 月 19 日～2 月 25 日

訪問団構成

坂本龍太 (Ryota Sakamoto) 白眉センター 助教

西辻裕紀 (Yuki Nishitsuji) 理学研究科 数学・数理解析専攻 修士課程 2 年

森藤彬仁 (Akihito Morifuji) 医学部 2 年

米田実紀 (Minori Yoneda) 農学部 2 年

太田有紀 (Yuki Ota) 法学部 1 年

岡本共生 (Tomoki Okamoto) 法学部 1 年

中野太郎 (Taro Nakano) 法学部 1 年

奈良美和子 (Miwako Nara) 総合人間学部 1 年

訪問先

パロ、ティンパー、ワンデュポダン、プナカ

ブータン王立大学、ティンパー病院、診療所などを訪問

概要

2 月 18 日 関西国際空港に集合 機内泊

2 月 19 日 パロ国際空港に到着 ティンパーにて GNH comission の方と会食

2 月 20 日 National Referral Hospital 見学、ティンパー観光、在ティンパー京大関係者と会食

2 月 21 日 国王陛下誕生日記念行事見学、BHU 見学、ワンデュポタンへ移動

2 月 22 日 プナカ観光

2 月 23 日 パロに移動、Paro College の学生と交流

2 月 24 日 Paro College 構内見学、タクツァン見学

2 月 25 日 パロ空港より帰国の途につく

2 月 26 日 全員無事に関西国際空港へ帰国